

JACET Kansai Newsletter

No. 81 July 31, 2018

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗 裕子 (関西外国語大学) (Chapter President: Yuko Oguri, Kansai Gaidai University)

事務局: 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 関西学院大学法学部 石川圭一 研究室内

(Chapter Office: c/o Keiichi Ishikawa, School of Law and Politics, Kwansai Gakuin University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

「7月末に思うこと」

新田 香織 (副支部長)

今夏の地震、そして豪雨でお亡くなりになった方々に哀悼の意を、そして被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。数年前から温帯から亜熱帯になってしまったような印象でしたが、ますます予測のつかない天候、気候になってきました。7月7日実施予定だった JACET 関西の企画委員会、役員会、講演会も8月19日に延期となりました。休講となった授業の補講をどうするのか頭を悩ました大学も多いことと思います。勤務校では「天候やストのための半日や一日の休講は補講なし」という形で今まで来ましたが、年に数回こういう事態が起こるようになると、授業回数保証の観点からもこのままでは立ち行かなくなるのは目に見えています。「授業料を払っているのに」という学生さんからの苦情も出始めているようです。今後早急に対処方法を検討する方向で動かざるを得ないと思われま

す。ただ、単なる授業回数保証の議論で終わってはいけな

い

とつくづく感じます。補講の日程を組めないほど余裕のないスケジュール、補講をしたとしても全員が参加しているわけではない現実、さらに15回の授業で学生がどれだけ学んで、どれだけ成長したかの学習効果の把握、それに基づいた授業内容や授業方法の改善をどうしていくのか、この際根本的に議論し直すべきだと考えます。

2020年度よりセンター試験から「大学入学共通テスト」に替わります。「各大学は、新テストと4技能を測定する民間の資格・検定試験のいずれかまたは両方を利用できる」とされていますが、私立大学協会と公立大学協会は「各大学の判断に委ねる」、一方国立大学協会は「共通テストの受験者全員に両方を課す」と決めています。新テストの内容は「筆記(リーディング)」と「リスニング」になりますが、試験時間は変更なく、それぞれ80分、60分(うち解答時間は30分!)となっています。

受検者は高校3年生の12月までに受検し、結果(CEFRの段階含む)が大学に送られます。これら民間試験についてはまだまだ議論すべき項目が多すぎて、立ちすくんでしまいそうなのですが、すでに2018年入試で民間試験を導入した大学は推薦入試、AO入試、一般入試も含めると全大学の約半数に達するという事です。ただし、実施までに2年を切った現在でも導入の是非について検討を継続している大学もあります。

文科省の「英語4技能評価の必要性」によると、「グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が課題となっており、現行の高等学校学習指導要領(平成25年度~)では、授業は英語を用いて行うことを基本とし、英語4技能を総合的に育成することが求められている」、ゆえに、「4技能を評価する民間テストを導入せざるを得ない」ということです。4技能を測定する試験を民間に頼るしかないのか、7種類ものテストを導入して正確な測定が可能なのかどうか、まだまだ議論すべき余地があると考えます。

試験が授業内容や授業方法など教育システムの改善に影響を与えるという「ウォッシュバック(研究者によってはバックウォッシュ)効果」がありますが、ぜひとも「良い」と思われる効果が期待でき、業界よりも学生主体で、そして学生の将来を見据えた納得のいく形の試験をと願ってやみません。先週、学生の一人が、「過去20年間給与が伸びていないのは、欧米やアジアの(統計に含まれる)国々の中で日本だけ」という実態とその原因についてプレゼンテーションをしてくれました。また別の学生は、「日本国民の幸福度が非常に低い」問題について語ってくれました。若者たちにとって夢や活気のある、幸せを感じられる人生へのサポートを微力ながら続けたいと思います。

最後になりましたが、JACET 関西の会員のみならず、JACET 関西支部紀要第21号への応募受付が始まっております。みなさまの日頃のご研究や授業実践を会員全員で共有させていただければと願っており

ます。9月30日必着です。

なお、21号から論文の種類とページ数を改訂し、研究論文は以前と同様に20ページ以内、研究ノートは10ページ以内となりました。さらに実践報告(校閲のみ)は6ページ以内と短いですが、JACET国際大会、支部大会での発表、各研究会での活動に基づいて、より多くの方に応募していただければと期待しております。「紀要編集委員会より」もご覧いただいて、是非ふるってご応募ください！(近畿大学)

■ 支部研究会のご案内 ■

関西支部では10の研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介し、各研究会では原則として、常時、新入会員の申込みを受け付けておりますので、興味・関心のある研究会がありましたら、お気軽に各研究会の代表者までご連絡ください。また、最新の活動情報は、支部ホームページ(<http://www.jacet-kansai.org/>)にてご確認ください。

The Kansai Chapter has the following 10 Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. According to our policy, they are run as two-year projects, being renewed every two years with new leaders. Please refer to the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/group.html>) for more information, or contact the leader of the SIG in which you are interested.

◆文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：吉村 俊子 (花園大学)

t-yoshim[AT]hanazono.ac.jp

副代表：時岡 ゆかり (大阪産業大学)

ytokioka[AT]las.osaka-sandai.ac.jp

◆学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：吉田 幸治 (近畿大学)

k_yoshida[AT]bus.kindai.ac.jp

副代表：山本 修 (大阪市立大学)

yamamoto[AT]mae.osaka-cu.ac.jp

◆ESP研究会 (English for Specific Purposes)

代表：浅井 静代 (立命館大学)

sasai[AT]fc.ritsumei.ac.jp

副代表：藤枝 美穂 (大阪医科大学)

mfujieda[AT]osaka-med.ac.jp

◆「海外の外国語教育」研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：植松 茂男 (同志社大学)

suematsu[AT]mail.doshisha.ac.jp

副代表：高坂 京子 (立命館大学)

kosaka[AT]ba.ritsumei.ac.jp

◆教材開発研究会 (Materials Development)

代表：赤尾 美和 (近畿大学)

miwa_0722[AT]yahoo.co.jp

副代表：西垣 佐理 (近畿大学)

nishigaki[AT]nara.kindai.ac.jp

◆リスニング研究会 (Listening)

代表：高橋 寿夫

takahasi[AT]cwo2.bai.ne.jp

副代表：神野 雅代 (四天王寺大学)

kanno[AT]shitennoji.ac.jp

◆リーディング研究会 (Reading)

代表：高田 哲朗 (京都外国語大学)

thenrytakada[AT]gmail.com

副代表：蔦田 和美 (関西外国語大学短期大学部)

kazumi0107[AT]hotmail.com

◆ライティング指導研究会 (Writing Research)

代表：山下 美朋 (立命館大学)

mihoron121[AT]gmail.com

副代表：久留 友紀子 (愛知医科大学)

yn146tc[AT]gmail.com

◆授業学(関西)研究会 (Developmental Education)

代表：岡田 伸夫 (関西外国語大学)

okadan[AT]cameo.plala.or.jp

副代表：村上 裕美 (関西外国語大学短期大学部)

hiromim[AT]kansai.ac.jp

◆科学英語教育研究会 (English for Japanese Scientists)

代表：幸重 美津子 (京都外国語大学)

m_yukish[AT]kufs.ac.jp

副代表：村尾 純子 (大阪工業大学)

junko.muraof[AT]oit.ac.jp

副代表：尾鍋智子 (桃山学院大学)

tonabe[AT]andrew.ac.jp

■ 2018年度第1回支部講演会のお知らせ ■

豪雨により7月7日から延期されました2018年度第1回支部講演会は、下記の日程で開催されます。

日時：2018年8月19日(日) 15:30~17:00

会場：神戸国際会館 805号会議室

(<http://www.kih.co.jp/access>)

講師：岩井 千秋 先生 (広島市立大学国際学部教授)

演題：高等学校指導要領に謳われた『英語の授業は英語で』の結果、影響、そして課題

([http://www.jacet-kansai.org/file/2018L1\(HP\).pdf](http://www.jacet-kansai.org/file/2018L1(HP).pdf))

講演後は茶話会も予定されております。奮ってご参加ください。

■ 2018 年度第 2 回支部講演会のお知らせ ■

2018 年度第 2 回支部講演会は、下記の通り「海外の外国語教育」研究会による講演（シンポジウム）を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 日時：2018 年 10 月 13 日(土) 15:30~17:00
2. 場所：同志社大学 今出川キャンパス
3. テーマ：シンポジウム
「国際的にみた日本の外国語教育への提言—EU の教育政策から考える—」

4. 演題と講師：

- (1) 「スペインの外国語教育制度からの示唆」
植松 茂男 先生（同志社大学）
- (2) 「イタリアの外国語教育制度からの示唆」
二五 義博 先生（海上保安大学校）
- (3) 「オランダの外国語教育制度からの示唆」
高坂 京子 先生（立命館大学）
- (4) 「ドイツの外国語教育制度からの示唆」
杉谷 眞佐子 先生（関西大学名誉教授）
- (5) 「‘Happy Slave Syndrome’ からの覚醒」
大谷 泰照 先生（大阪大学名誉教授）

5. 概要：

1999 年、ドイツ・ケルンにて、初めて先進国首脳会議で教育問題が取り上げられ、「21 世紀は教育の世紀」であることが確認された。各国が「教育」を優先すべき課題と位置づけ、それ以降、世界の教育改革の動きは、目を見張るものがある。国境を跨ぐ可動性が活発化し、遍在する情報網が豊かになった今、教育は一国内だけで考慮されるべき課題ではなくなり、世界の潮流を注視しながら、共に歩調を合わせるべきものとなっている。とりわけ、異言語教育・外国語教育においては、異文化間の摩擦を如何に武力に頼らずに解決するか、その解決策に果たす役割は大きい。

本シンポジウムでは、そのような現代社会の課題と前世紀の戦争の歴史への反省を教育に反映させている EU 諸国（スペイン、イタリア、オランダ、ドイツ）の実践と課題を、複言語・複文化主義を根底に置いた外国語教育、早期外国語教育、母語教育、また、言語教育で扱う題材、CLIL などの教育方法の点から、現地調査を通して報告する。国際軸を通して日本の外国語教育の視座を確認し、日本の外国語教育の課題点、日本の教育が陥っている深刻な ‘Happy Slave Syndrome’ の実態、教育指針の構築に資する点を考究し、日本の教育行政が取り組むべき課題、とくに外国語教育の向かうべき方向性を提言する。

6. 参加費：JACET 会員は無料、非会員は 500 円。
事前申込不要

7. 使用言語：日本語

8. 茶話会：講演会後に茶話会（ノンアルコール、参加費 500 円 1 時間程度）を予定

Kansai Chapter Second Lecture Meeting of AY 2018

Date : October 13 (Sat), 2018, 15:30-17:00

Venue: Doshisha University, Imadegawa Campus

Panelists:

OTANI Yasuteru, Prof. Emeritus, Osaka University
UEMATSU Shigeo, Doshisha University
NIGO Yoshihiro, Japan Coast Guard Academy
KOSAKA Kyoko, Ritsumeikan University
SUGITANI Masako, Prof. Emeritus, Kansai University

Symposium

Foreign Language Education in Japan from International Perspectives: Educational Policy Implications from Findings in the EU

Spain UEMATSU, Shigeo (Doshisha University)
Italy NIGO Yoshihiro (Japan Coast Guard Academy)
The Netherlands KOSAKA Kyoko (Ritsumeikan University)
Germany SUGITANI Masako (Prof. Emeritus, Kansai University)

‘Happy Slave Syndrome’ in Education

OTANI Yasuteru (Prof. Emeritus, Osaka University)

Proposal: Many nations have been struggling to work on new educational policy implementation since educational issues were discussed for the first time as one of the major agenda items at the G8 Summit Meeting at Köln, Germany in 1999. For the last couple of decades, active global mobility and ubiquitous access to the Internet have made us realize that educational issues should not be discussed only within a domestic community, but also at the global community level. Consequently, we need to further develop our educational policies, looking at the current situation from international perspectives. Above all, issues of foreign language education must be discussed world-wide because it is believed that languages should have a key role in building a peaceful society and contributing to greater cross-cultural understanding.

At the symposium, several findings will be reported from an examination of educational issues in the European Union, where efforts to build a peaceful international community have necessitated overcoming friction in terms of history, economics, political thought and racial issues through education. Particularly, findings from the research on language issues such as plurilingualism and

pluriculturalism for a mutual understanding, early-aged foreign language education, mother tongue education, and CLIL in Spain, Italy, the Netherlands and Germany will be discussed. Also, some implications and proposals on education policy in Japan will be presented. Some of the proposals will include mental chains called ‘happy slaves,’ which have led to a reconsideration of popularly held beliefs about language education in this country.

Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register

Main language for the symposium: Japanese

Party: Please join us for a one-hour gathering with soft drinks and light snacks after the lecture. The fee is ¥500.

Details are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■ 2018 年度第 3 回支部講演会のお知らせ ■

日時：2019 年 3 月 9 日（土）15:30～17:00（予定）

場所：関西学院大学梅田キャンパス

内容：関西支部 教材開発研究会企画

■ JACET 第 57 回国際大会のお知らせ ■

2018 年 8 月 28 日（火）から 30 日（木）まで東北学院大学にて第 57 回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：グローバル化に向けた初等英語教育から高等英語教育までの学習成果の質保証

日程：8 月 28 日（火）～ 8 月 30 日（木）

場所：東北学院大学 土樋キャンパス

要旨：日本の高等教育の教育情勢は拡大するグローバル化の必要に応じて変化している。英語教育に関しては、留学などの国境を越えた教育プログラムの急増、学術や特定の目的のための英語に対する需要がある。初等外国語教育における新たな取り組みに見られるように、グローバル化が加速することで、日本の英語教育の現場では様々な影響が出ている。このような変化は英語学習や指導の状況に多大な影響を与えてきた。たとえば、コミュニケーション能力に特化した明確な学習成果が強く主張され、中等教育における「英語は英語で教える」という政策や高等教育における EMI（英語を媒介とした授業）を

促進するようなカリキュラム改革が求められている。しかし、これらの変化により、初等レベルから高等レベルまで一貫性のある英語カリキュラムの必要性、言語プログラムの評価、教授法の選択肢、さらには、教員研修や専門能力の開発にいたるまで数多くの課題が浮上している。

東北で開催される大学英語教育学会（JACET）第 57 回国際大会（仙台、2018）のテーマは、あらゆるレベルにおいて英語教育の学習成果の質をどのように「保証」するかの検証である。このテーマの下、現場の教師、カリキュラムや教材の開発設計者、プログラムの運営管理者、政策立案者、研究者および学者が、教育プログラムにおいて質の高い学習成果を確実に上げるためには、どのようなことを行い、どう関わっていくべきかを探る。したがって、大会参加者にとっては、質の高い学習成果をどのように定義するか、学習到達度をどのように測定するかのいずれもが重要となる。ここでは単一の包括的解決を模索するのではなく、むしろ、グローバル化した知識基盤社会の言語教育において、質の高い学習成果を促す際の争点を見極め明確化したい。多様性を認め、尊重しつつ、興味・関心を抱く世界中の教育者に議論に参加していただきたい。

詳細は、第 57 回国際大会ホームページ (<http://www.jacet.org/convention/2018-2/>) をご覧ください。

The JACET 57th International Convention

Theme: Assuring Quality Learning Outcomes in Primary to Tertiary English Education for Globalization

Date: Tuesday, August 28—Thursday, August 30, 2018

Venue: Tohoku Gakuin University, Tsuchitai Campus

Abstract: The educational landscape of Japanese higher education is changing to meet the demands of increasing globalization. In terms of English language education, there has been a surge of cross-border education programs (e.g. study abroad) and a demand for English for academic and specific purposes. The acceleration of globalization also has ramifications at other levels of the English educational scene in Japan as exemplified by new initiatives in foreign language education at the primary level. Such changes have had a great impact on the conditions of English learning and teaching. For example, clear learning outcomes specifying communicative competence are strongly advocated, leading to curriculum reforms that promote a ‘teaching English in English’ policy in the secondary school context and EMI (English medium instruction)

at the tertiary level. However, these changes have also raised numerous issues, ranging from the need for coherent English curricula from the primary to the tertiary levels, assessment of language programs, pedagogy options to teacher training, and professional development

The theme of the 57th JACET International Convention (Sendai, 2018) in Tohoku will examine how quality learning outcomes in English education can be 'assured' at all levels. We will explore how classroom practitioners, curriculum and materials designers, program administrators, policy makers, researchers, and academics can pursue or engage in activities to ensure that quality learning outcomes are achieved in educational programs. In this regard, it will be important for participants to discuss both ways to define quality learning outcomes and ways to measure learning achievement. We will not be looking for a single comprehensive solution but rather wish to identify and delineate the challenges at stake in promoting the achievement of quality learning outcomes in language education in our knowledge-based, globalized society. Valuing and respecting diversity, we invite all interested educators from around the world to come and join the discussion.

For details, please visit the 57th International Convention website (<http://www.jacet.org/convention/2018-2/>).

■ 2018 年度関西支部大会のお知らせ ■

2018 年度の関西支部大会を以下の要領で開催します。

日程：2018 年 11 月 17 日（土）

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

大会テーマ：英語教育の今とこれから

基調講演：Tim McNamara（メルボルン大学教授）

“Fairness and Justice in Language Testing”

特別講演 I：Tom Gally（東京大学教授）

「機械翻訳と英語教育」

特別講演 II：新谷 奈津子（神戸学院大学准教授）

“Writing-to-Learn: Issues in Past and Current Theory and Research”

研究発表申込：7 月 1 日（日）～ 9 月 8 日（土）

支部 HP（<http://www.jacet-kansai.org/>）から、WEB フォームでお申し込みください。教員だけでなく、大学院生の会員による応募も歓迎です。

<<申込要項>>

1. 発表は、英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限る
2. 発表者（共同発表者を含む）は、JACET 会員に限る（申込時点で会員資格が必要）
3. 発表言語は、日本語または英語
4. 発表種別・時間は、以下の通り
 - ワークショップ：発表者は1名～数名。参加者によるタスク活動を含む。90分
 - コロキアム：発表者は数名。特定のテーマについての議論を行う。90分
 - 研究発表：理論的、実証的な研究成果を発表。30分（発表20分＋質疑10分）
 - 実践報告：授業実践やカリキュラム改革に関する報告。30分（発表20分＋質疑10分）
 - ポスター発表：研究・実践の内容について発表し、参加者と議論する。（コアタイム60分）
5. 応募に際して必要な情報
 - a) 発表形式：ワークショップ、コロキアム、研究発表、実践報告、ポスター発表の別
 - b) 発表題目：日本語および英語、英語はタイトルの各単語をキャピタライズ
 - c) 発表者情報：氏名（漢字とローマ字）、所属（日本語と英語）、E-mail アドレス（共同発表者は氏名と所属のみ）
 - d) 発表に使用する言語：日本語または英語
 - e) 使用希望機器

発表要旨

- a) 内容：「研究発表」の場合は、目的、仮説（リサーチクエスション）、研究方法、結果、考察を、「実践報告」の場合は、背景、具体的内容、実践結果に対する考察を簡潔に書く。「ポスター」の場合も扱う内容に応じて、これらに準ずる。「ワークショップ」「コロキアム」は目的、対象、手法を詳しく記す。いずれの場合も引用文献リストは要旨に含めない。
 - b) 分量：日本語400字～500字 または 英語200～250 words とし、要旨末尾に字数または語数を丸カッコ書きで明記する。
6. 審査は、支部研究企画委員会にて行う。
 7. 審査結果は10月2日（火）以降にE-mailにて通知する。必要に応じてフィードバックを行う。
 8. 審査結果通知後の辞退は原則としてできない。

- Kansai Chapter 2018 Conference -

Kansai Chapter 2018 Conference will be held as follows.

Date: November 17, 2018

Venue: Kwansai Gakuin University, Nishinomiya-Uegahara Campus

Conference Theme: English Education, Present and Future

Keynote Lecture: Prof. Tim McNamara (University of Melbourne) "Fairness and Justice in Language Testing"

Special Lectures I: Prof. Tom Gally (Tokyo University) "Machine Translation and English Education"
(to be presented in Japanese)

Special Lectures II: Dr. Natsuko Shintani (Kobe Gakuin University), "Writing-to-Learn: Issues in Past and Current Theory and Research"

Call for papers:

Sunday, July 1 – Saturday, September 8, 2018

We welcome presentation proposals from all members, including student members. A web-based proposal form is available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>). Come and share your work with the JACET community!

The conditions and procedures for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) Prospective presenters (both representative presenters and collaborators) must be JACET members at the time of submission.
- 3) The language for presentation should be either English or Japanese.
- 4) Presentation types and time allotments are as follows:
 - Workshops: Presenter(s) will guide participants in specific tasks. 90 minutes.
 - Colloquia: Each presenter gives a presentation followed by discussion among the presenters and with the floor. 90 minutes.
 - Research papers: Presenter(s) will describe theoretical or empirical research. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).
 - Practical reports: Presenter(s) will describe classroom activities or ELT curriculum

innovation. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).

- Poster presentations: Presenter(s) will participate in one-on-one discussion of research or practical report using a poster. (core time 60 minutes).

5. Information requested in the Application form

- a) Type of proposal: research paper, practical report, poster session, workshop, or colloquium.
- b) Title of proposal: English and Japanese. When writing in English, capitalize the first letter of each word.
- c) Information about applicant(s): representative presenter; name, affiliation, e-mail address, collaborators; name and affiliation.
- d) Language for presentation: English or Japanese.
- e) Equipment required.

Abstract:

- a) For a research paper, describe the purpose of the research, research question(s), research method(s), results and discussion. For a practical report, give the background of the report, details, conclusion, and other relevant information. Do not include references in the abstract.
- b) Should be 200-250 words if in English or 400-500 characters if in Japanese. Give word count in parentheses at end of abstract.

6. The proposals will be peer-reviewed by the Research Planning Committee.

7. Review results and feedback, as necessary, will be sent after October 2.

8. Cancellation after the acceptance of the presentation is not permitted in principle.

=====

JACET Kansai Chapter Research Planning Committee
jacetkansaiconf@gmail.com

■ 紀要編集委員会より ■

今年度刊行の第21号関西支部紀要は、研究論文、研究ノート、さらに支部大会や全国大会で発表された内容や、各研究会活動に基づく実践報告を募集しています。支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を会員および多くの方々に共有していただけるように、第21号への応募をお願いいたします。支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) にあり

まず投稿用のテンプレート (WORD) をそのままご使用いただければ幸いです。

投稿期限：2018年9月30日(日)午後11時59分

論文送付先：紀要編集委員会 事務局長

住吉 誠 (摂南大学)

[jacetkj\[at\]gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

提出方法：ウェブサイトでの申し込みと電子メールでの添付ファイル (WORD と PDF)。

(原稿郵送は不要です。)

※ 受領後3日以内に事務局より確認の返信が届きません。万一、3日経っても返信が届かない場合は、住吉誠まで再度ご連絡ください。

※ 提出方法の詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/file/toukougitei.pdf>) をご覧ください。

重要な日程：

2018年 9月30日 (必着) 投稿原稿締め切り

12月1日 審査結果通知

2019年 1月7日 (必着) 最終修正原稿締め切り

3月31日 刊行

JACET Kansai Journal Call for Papers

Kansai Chapter members are welcome to submit manuscripts for consideration for publication in JACET Kansai Journal (JKJ) No. 21.

Papers should be related to research on college English language education or relevant areas. The JKJ especially welcomes papers that have been presented at JACET chapter or national conferences within the past year. Please check the guidelines for details on submission procedures and requirements available at <http://www.jacet-kansai.org/file/toukougitei.pdf>. Please use our template so that we can minimize our proofreading process.

1. Go to JACET Kansai Journal website, and submit your application.
2. Send your manuscripts (WORD and PDF) to:
Makoto, Sumiyoshi.
JACET Kansai Journal Secretariat
[jacetkj\[at\]gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please request confirmation. Only e-mail submission will be accepted. Postal submission of paper-based manuscripts will NOT be accepted. Prepare your manuscript according

to the JKJ instructions using Microsoft Word. Send it as an attached file with an email message to Makoto Sumiyoshi, Secretariat, JACET Kansai Journal.

Important Dates:

- Deadline for manuscripts:

September 30, 2018 (via email as an attached file)

- Announcement of editorial decision:

December 1, 2018

- Deadline for receipt of revised final manuscripts:

January 7, 2019 (via email as an attached file)

- Publication: March 31, 2019

Please refer to the guidelines and template at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■ 事務局より ■

Messages from the Kansai Chapter Office

6月の大阪北部地震と7月の西日本豪雨による被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、本年度のJACET国際大会は、8月28日(火)から30日(木)まで、東北学院大学土樋キャンパスで開催されます。また、本年度のJACET関西支部大会は、11月17日(土)に関西学院大学上ヶ原キャンパスで開催されます。どちらも奮ってご参加ください。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメール・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報(住所、メールアドレス、所属、電話番号など)が変わられた方は、**必ず本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) まで**ご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。

特に、支部からの案内メールが宛先不明で数多く戻ってまいります。ご登録のメールアドレスをご確認ください。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to **the JACET Main Office (jacet@zb3.so-net.ne.jp)**.